

マゴイ増殖技術開発研究

久米 弘人

◆背景・目的

平成16年に琵琶湖で10万尾を超えるコイが斃死し、そのほとんどがマゴイと考えられた。琵琶湖でマゴイ資源が激減した今日、マゴイ資源を早急に回復させるため、種苗生産放流を行った。また、マゴイの生態について不明な点も多く、繁殖生態を把握するため、産卵調査を行った。

◆成果の内容・特徴

- ・種苗の親魚にはミトコンドリアDNA判別と核DNA判別の2つの手法を用いてマゴイ（野生型コイ）と判断されたものを用いた。
- ・採卵は平成18年5月31日に自然採卵で行い、82,000尾のふ化仔魚を得た。ふ化仔魚66,000尾は、初期生産として飼育池内の網生け簀で行い、その後40m²の屋外池1面に放養し、9月28日まで飼育した。取り上げ時点での尾数は62,700尾であり、生残率は95.0%、平均体重は5.6gであった。なお、この種苗は9月28日に南湖に放流した。
- ・生産した種苗62,700尾はPCR検査および抗体価測定を行い、KHV陰性と判断されたので、9月28日に南湖に放流した。
- ・湖北町海老江と守山市赤野井でコイの産卵調査を実施した。その結果、湖北町海老江では調査期間に得たコイのふ化仔魚53,585尾のうち、マゴイは48,568尾、交雑型コイ5,017尾で91%がマゴイであった。（図1）守山市赤野井ではサンプル数が少なく、マゴイ50尾、ヤマトゴイ6尾、交雑型コイ66尾であった。（図2）

◆成果の活用・留意点

- ・放流したマゴイの成長等の追跡調査を行うとともに、マゴイ資源回復のために効率のよい放流方法の検討を行う。
- ・天然水域でのマゴイの成長を把握し、種苗生産技術を確立する。

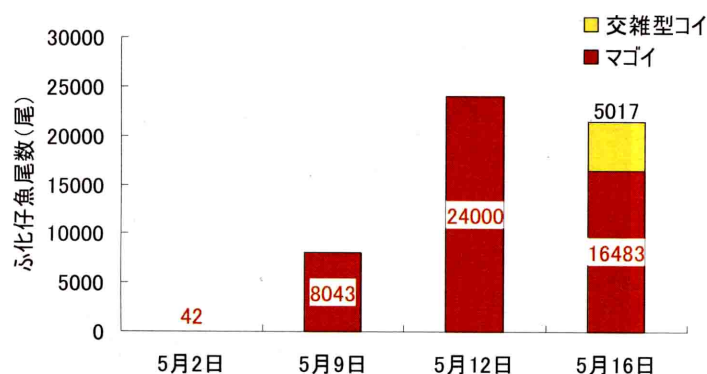


図1. 海老江におけるコイの産卵状況

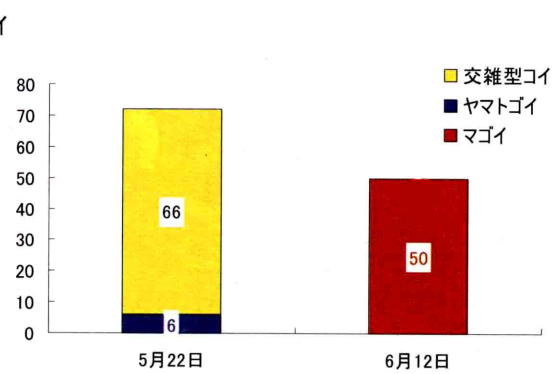


図2. 赤野井におけるコイの産卵状況